

## 6. 「第七回懇親会」決定事項

2009. 7. 31

2009.7.31 に第七回懇親会がN T T 武蔵野研究開発センター内、「華迎」にて開催されました。今回の懇親会は、隔年になってから初めての会合でしたが、参加者は極端に少なく、今井先生、鈴木威一様、坪井の3名でした。この会の発足の経緯などを考えますと、本会は一応その役割を終えたものと判断し（詳しくは、次号会報「巻頭言」に掲載の予定）、隔年にはありませんが来年7月に懇親会を開催し、それを以って定期的な懇親会は一先ず最終回とすることにいたしました。

第七回懇親会を正式なものと認め、今後のことを含め協議いたしましたので、以下にその報告事項と決定事項をお知らせいたします。

1) 会計報告：2008. 9.13 現在残金 ¥82,318 円

2) 会報第1号～第7号の合本、「会報：第一巻」の製本・・・材料原価@3,500円

寄贈した6冊分費用は会の残金から拠出・・・代金¥21,000円

寄贈先・・・N T T 図書室等3か所、国会図書館、今井先生、伊藤恭弘様

3) 2009. 9末 会報第13号 発行 予定

4) 2010. 7.23 (金)「華迎」にて、第八回懇親会（最終回）開催予定

「最終回」に相応しい行事が出来れば、と2～3の案が出された。

5) 2010. 9末 会報第14号 発行予定

6) 2010.12末、会報第8号～第14号の合本、「会報：第二巻」を製本発行予定

・・・材料原価見込み@3,500円

寄贈予定「会報：第二巻」の製本数6冊分代金¥21,000円は会の残金から拠出。

「会報：第二巻」の寄贈先は、「会報：第一巻」寄贈先に同じとする。

7) 今井研卒研究生・有志の会 の定期的な懇親会は2010年7月の「第八回懇親会」開催を

もって一先ず終了とする。また、「会報」も第14号の発行で終わりとなる。

但し、事務局は引き続き坪井が担当する。

以上

## 7. 編集後記

### 編集後記

8月、9月は実りの季節で、毎朝庭に出ると熟した果実などをもぎ取ってくる。今年はミニトマトや獅子唐の苗などを植えたので、庭に出れば真っ赤なトマトをもぎ取りポケットに入れる。獅子唐辛子も数個取る。今盛りのイチジクは梯子を使って木に登って採る。イチジクの木が二本あるので毎日10個以上がとれる。ブドウもとれる。これは隣の家に張り付いたブドウの木になっているのだが、私の家に面した側のブドウは自由に採ってください、とのこと。

これからは柿が熟してくる。私の庭では甘柿が採れる。隣の家からは渋柿の枝が張り出している。渋柿も自由にお取り下さい、とのこと、昨年は約100個の干柿を作ったので今年もそれを楽しみにしている。

さて、今井先生の「巻頭文」に示されたように、次回の懇親会と会報の発行でこの会を閉じることになる。卒研から約40年経っての集まりであったが、記憶を十分に引き出してくれたものと思っている。まだ出し切れていないという方は、是非とも次回の懇親会の出席と会報への投稿を期待している。

今井研卒研究生・有志の会 第七回懇親会 は巻頭文の写真に掲載されている通り参加者は3人であった。それでも3時間を感じさせない充実した会合であった。そこで合意事項は「第七回懇親会決定事項」として巻末に掲載した。

小野澤 賢三さんによる「電算写植システム(その2)」には、文字の選択方式の開発や字詰め送り時間の短縮技術の開発など、新聞や出版物は印刷時間との戦いであることが示されている。

「一期一会」は鈴木威一さんが意欲的に進めている会合で、今回の投稿によりその全貌とユニークさを知ることができる。

合本「会報:第一巻」のハードカバー製本を手造り(坪井)でやった時の様子をまとめてみた。試作のやり直しを何回か行ったために手際はよくなった。しかし布貼りの装丁を試みたが、職人のようには到底貼ることができず、諦めた。製本の商売は出来ないこともここで悟ることになった。

また、関係部署に寄贈した写真も掲載した。

次回の「会報第14号」が会報の最終号となる。当会員からの原稿を期待しています。

会報編集担当 : 坪井 孝光

### 連絡先

今井研卒研究生・有志の会

TEL : 042-461-6796

E-mail : i-tetsuji@jcom.home.ne.jp

会報第13号 : 2009.9.30 発行